



人と環境にやさしいトランジットモデル都市をめざして RACDA

第 153 号

2016 / 7

瀬戸内国際芸術祭向けマップ時刻表 観光と地域のバス路線の課題

■7月18日から始まる第三回瀬戸内国際芸術祭の夏会期、今回もラクダは岡山県側から電車・バス・フェリーなどの利用者に便利な「備讃瀬戸アクセスマップ」と時刻表を発行し、無料配布する。6年前の第一回ではガリ版刷りの白黒だったが、前回からはマップはカラー印刷となった。全国から瀬戸内国際芸術祭 2016 に訪れるアートファンの乗換の利便性向上と、更に岡山エリアの電車・バス・フェリーへの乗車を楽しんでもらおうというコンセプトで企画した。「鉄道・バス・フェリーのイラストを同時に楽しめる時刻表付きアクセスマップ」は、全国でもユニークなものである。

■岡山駅は、大阪方面・広島方面・四国方面・山陰方面など、中国四国一の交通結節点だけに大変多くの鉄道車両が走っている。バス会社も多く、瀬戸内海のフェリー会社もこれだけの船が航行している地域は珍しい。岡山は鉄道・バス・フェリーファンにとっては、多くの路線・車両を楽しむことができる地域であり、瀬戸内国際芸術祭 2016 と共に、各種の乗り物に乗車する楽しみが出てくる。表紙では、中国・四国エリアを走る鉄道・バス・フェリーの顔のイラスト(フェリーは側面)を36両並べている。

■島々に向かうフェリーには限りがあり、みんなが自動車で押しかけることはできない。公共交通を利用して、ゆったり、ゆっくりお酒でも飲みながら、瀬戸芸を楽しむのもまたいい。しかし島々に向かうには電車バスを乗り継ぎ、フェリーや高速船で島に上陸すれば、ちょっと大きい直島、豊島、小豆島では、更にバスの乗り継ぐ必要がある。いくらのおんびりと言っても、過疎地の島々だから公共交通のボリュームは限られているので、乗継を知る必要がある。鉄道・バス・フェリー等の乗り継ぎ時刻表とアクセスマップ・乗り場案内を2枚にまとめてみた。瀬戸芸を効率的に楽しむために、自分のために作ったというのが本音。とはいうものの、作った本人でも乗り継ぎは読むのが難しいのだが、この時刻表を読み解くと、あれも見てこれも見てという人々には便利かも。

■アクセスマップ(表一路線図・航路図、NO2)表面下側には、岡山・香川エリアの国際芸術祭周囲の交通機関を網羅した路線図。瀬戸芸公式ガイドブックの航路図番号が記載しており、時刻表と連動して接続時刻が調べられるように工夫されている。アクセスマップ(裏一のりば案内図、NO3)岡山駅・倉敷駅・西大寺駅・宇野駅・児島駅・高松駅・西宝伝バス停など、駅のホームののりば、バス停、港ののりばなどへの行き方が示してあり、初めての利用者でも乗換場所がすぐに分かる案内図が掲載されている。

NPO 法人公共の交通ラクダ(RACDA)

事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内 1-1-15 禁酒会館 3F TEL&FAX 086-232-5502

E-mail:info@racda-okayama.org

URL:http://www.racda-okayama.org

RACDA

検索



■乗り換えに便利な「鉄道・バス・フェリー接続時刻表(No4~13)」を別刷りにて同時配布する。印刷版の内容はラクダホームページに同時掲載。時刻表には関連各社などのQRコードを添付して、スマホでの時刻確認へ配慮。印刷版は下記4種類で、岡山駅を始めとする乗換駅、各観光案内所、宿泊施設などで配布。

NO4『岡山→犬島・豊島・小豆島』

NO5『岡山→直島・豊島・小豆島』

NO6『直島・豊島・小豆島→岡山』

NO7『岡山→小豆島、豊島島内』

さらに、岡山駅から高松駅、島々への時刻表はRACDAホームページのみに掲載。

NO8-11『岡山・高松⇄島々1-2』(直島・男木島・女木島・豊島・小豆島・大島)

NO12-13『岡山・倉敷⇄本島・高見島・粟島』(児島・丸亀・多度津等からの時刻表)

■今回作品が増えた小豆島では、バスも大変身している。小豆島オーリーブスは2010年(平成22年)に小豆島バスから路線バス6路線の運行業務の移管を受け運行を開始した。前回まで土庄港から肥土山の農村歌舞伎舞台までは路線があったが、瀬戸芸期間中には中山からさらに池田港を通過して内海方面に行く路線も運行されていた。今回の会期に合わせた路線は再編され、土庄から肥土山を通過して池田までは中山線となり、しかも土庄—肥土山の料金は320円が300円になった。実は島内のバスすべて上限300円となったのである。瀬戸芸の観光需要が引き金となって、過疎バスの便数が増え、路線は使いやすくなり、料金も下がった。これは画期的な交通実験が始まったのではないか。

■全国のバスは40年間売り上げが下がり続ける状態で、再投資もできず30余の大手バス会社が倒産し、路線バスの撤退後、税金でコミバスを走らせるところが増えている。しかし観光需要のあるところでは、今回の小豆島のように観光需要を取り込んだ生活路線維持策もあるはずだ。特に欧米からのお客は意外にバス電車を使っている。

■前回から西讃岐の本島・高見島・粟島・伊吹島などが瀬戸芸開催地になり、宇野—児島—坂出のルートが脚光を浴びつつある。瀬戸大橋ブームは一過性に終わったものの、瀬戸大橋のボリュームは、瀬戸芸に来られた世界のお客様には見てほしいもの。調べてみると、宇野から児島までは、王子ヶ岳登山口の乗り継ぐ両備バスと下電バスの路線が接続している。また児島から瀬戸大橋中間の与島までは下電バスが走り、接続して坂出まで琴参バスが走る。それぞれ1時間ほどの旅だが、瀬戸内海の絶景を楽しむ素晴らしいバスルートだ。

